



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月13日

上場会社名 株式会社ベネフィットジャパン 上場取引所 東
 コード番号 3934 URL http://www.benefitjapan.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐久間 寛
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼総務部長 (氏名) 松下 正則 TEL 06 (6223) 9888
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	5,710	28.0	891	38.5	887	37.8	595	35.8
2019年3月期第3四半期	4,463	13.8	643	18.6	643	20.3	438	17.6

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 595百万円 (35.8%) 2019年3月期第3四半期 438百万円 (17.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	101.04	100.12
2019年3月期第3四半期	74.44	73.79

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	7,219	4,062	56.3	688.97
2019年3月期	5,423	3,513	64.8	596.06

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 4,062百万円 2019年3月期 3,513百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,600	22.7	1,000	18.6	1,000	18.6	680	16.3	115.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	5,896,419株	2019年3月期	5,894,769株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	356株	2019年3月期	356株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	5,894,872株	2019年3月期3Q	5,892,107株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、経営方針を『情報通信サービスを中心にお客様のライフスタイルをもっと楽しく便利に!』と定め、その実現のために、一般顧客向けに、SIMカード、通信機器・コミュニケーションロボット及びコンテンツの中から最適なプランを企画・提案する「ONLY SERVICE」と総称する総合的な通信サービスを提供しております。

当社を取り巻く環境においては、独自サービス型SIM(注1)市場において、5Gサービスが今春より順次始まることや、IoT関連のデバイスの提供が本格化していくことが見込まれるなど更なるマーケットの拡大が期待されております。また、サービスロボット分野では、当社が取り扱っているコミュニケーションロボットの家庭・店舗・オフィスなど多彩な活用シーンが注目されており、今後の市場拡大が期待されております。

このような状況の中、当社グループでは、ショッピングモールや百貨店での顧客獲得活動やWEB販路等の強化により、「ONLY SERVICE」会員数を順調に伸ばすことができ、ストック収入においても大きく増加いたしました。また、当社は第2四半期連結会計期間末日において株式会社モバイル・プランニングの全株式を取得し、子会社化いたしました。株式会社モバイル・プランニングは、モバイルWi-Fiのレンタル事業を展開し、当社グループの従来ターゲットである長期利用者とは異なる短期利用者が主なターゲットであり、これにより当社グループとしてより幅広い顧客のニーズに応えることが可能となりました。株式会社モバイル・プランニングは、自社運用サイトの「NETAGE」、「九州WiFi」及び楽天市場、Yahoo!ショッピング等での顧客の獲得やMVNE(注2)事業を行っております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高5,710,771千円(前年同期比28.0%増)、営業利益891,661千円(同38.5%増)、経常利益887,079千円(同37.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益595,597千円(同35.8%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来、報告セグメントとして記載しておりました「契約加入取次事業」及び「天然水宅配事業」は量的な重要性が減少したため、「その他」に含めて記載しており、前年同期との比較は変更後の報告セグメントの区分に基づき記載しております。

(MVNO事業)

MVNO事業は、当社グループにおける主力事業であり、ルーターとSIMカードをパッケージ化した「ONLY Mobile」、コミュニケーションロボットとSIMカードをパッケージ化した「ONLY ROBO」の端末販売及び通信サービスの提供を行っております。また、それらの付帯サービスとして、インターネットオプションサービスやコンテンツ等の「ONLY OPTION」の提供を行っております。当社は、将来のストック収入増加や既に他社で開始されている通信料金と端末代金の分離プランの導入に備えるため、当第3四半期より「ONLY Mobile」の料金体系を変更し、短期的な利益と長期的な利益のバランスの見直しを行いました。

「ONLY Mobile」につきまして、WEB販路代理店との取引拡大、「ONLY Mobile Speedy nonstop 100」などのヘビーユーザー向けプラン、代理店のオリジナルプランである「Only Customize Plan」の販売が好調に推移したことにより、大きく会員数を伸ばすことができました。また、国内も海外も利用できる「ONLY Mobile+world」の販売を開始しました。特徴として、利用エリアや建物の環境によって最適な通信キャリアの回線を自動で選択することができ、また、面倒な手続きがいらず、電源を入れるだけで日本を含めた世界135の国や地域で使用することができます。

「ONLY ROBO」につきまして、シャープ社との協働によるタブレットと連動した当社オリジナルモデル版『ONLY ROBO ロボホン プレミアム』の販売を本格的に開始しており、順調に会員数が増加しております。催事開催においては、イベントスケジュールから来店予約ができるWEBサイトを活用することで、交通アクセスが良い大都市での催事への効率的な集客ができるようになり、大都市を中心に効果的な開催機会を拡大させてきました。また、当社は9月に新宿高島屋、10月に大阪高島屋・ジェイアール名古屋タカシマヤの「ロボティクススタジオ」において「ONLY ROBO ロボホン プレミアム」を中心に様々なコミュニケーションロボット・IoT商品の販売を開始しました。これにより、顧客体験が可能な空間を創出し、対面でのサポート対応を充実させてまいります。

人材の確保については、新卒採用の環境が厳しいなか、採用基準の見直しやインターンシップを強化した結果、即戦力となる優秀な人材を多数採用することができ、販売数の増加に繋げることができました。

保有会員へのサービス向上策としては、前連結会計年度より「つながるカスタマーセンター」を目標として掲げ、サービス品質の向上に努めてまいりました。また、カスタマーセンターの人員増強、RPAの導入による顧客管理業務の効率化、サポートサービスの内製化等、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

以上のことから、当第3四半期連結会計期間末におけるONLYSERVICEの会員数は以下の通りとなりました。

	2019年12月末	2018年12月末	前年同月比
ONLYSERVICE総会員数	113,400人	85,900人	32.0%増
ONLYMobile	83,600人	55,800人	50.0%増
ONLYROBO	8,000人	5,000人	58.7%増
ONLYOPTION(※)	58,000人 (21,700人)	53,300人 (25,000人)	8.9%増

(※) ()内の人数については、当社のONLYOPTIONのみを利用されている会員数となります。

その結果、売上高5,213,018千円(前年同期比33.1%増)、営業利益1,100,960千円(同52.3%増)となりました。

(その他)

その他については、主に天然水宅配事業とハウスペンダー事業を行っております。天然水宅配事業につきましては、営業活動を縮小しているため保有顧客数が減少しましたが、一方で顧客維持の管理コストや減価償却費が減少したため、営業利益は増加いたしました。また、ハウスペンダー事業につきましては、消費税増税後の落ち込みにより売上高・営業利益ともに減少いたしました。

その結果、売上高497,753千円(前年同期比8.7%減)、営業利益112,831千円(同3.1%減)となりました。

(注1) 独自サービス型SIMとは、独立系MVNOがSIMカードを活用し、独自の料金プランで様々な通信サービスを顧客へ提供する形態であります。

(注2) 大手キャリアより回線を借り受けて、MVNOに回線を卸す事業者のことであります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は6,521,966千円となり前連結会計年度末と比べ1,361,150千円増加いたしました。これは、主として割賦販売による割賦売掛金の増加829,937千円、受取手形及び売掛金の増加250,736千円、現金及び預金の増加350,082千円等によるものです。固定資産は697,537千円となり前連結会計年度末と比べ434,420千円増加いたしました。これは、主として株式会社モバイル・プランニングを連結子会社化したことに伴うのれんの増加357,323千円によるものです。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は2,901,601千円となり前連結会計年度末と比べ1,022,862千円増加いたしました。これは、主として短期借入金の増加830,000千円、支払手形及び買掛金の増加78,760千円、1年内返済予定の長期借入金の増加60,000千円等によるものです。固定負債は255,696千円となり前連結会計年度末と比べ223,937千円増加いたしました。これは、主として長期借入金の増加226,333千円によるものです。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上(595,597千円)により、前連結会計年度末と比べ548,771千円増の4,062,206千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日に公表いたしました、通期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細については、本日(2020年2月13日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	359,170	709,252
受取手形及び売掛金	565,350	816,087
割賦売掛金	4,247,865	5,077,802
商品	127,396	128,460
その他	26,992	32,652
貸倒引当金	△165,960	△242,289
流動資産合計	5,160,815	6,521,966
固定資産		
有形固定資産	30,230	36,326
無形固定資産		
のれん	—	357,323
その他	20,193	34,901
無形固定資産合計	20,193	392,224
投資その他の資産		
その他	291,612	348,198
貸倒引当金	△78,919	△79,212
投資その他の資産合計	212,692	268,986
固定資産合計	263,116	697,537
資産合計	5,423,932	7,219,503
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	128,055	206,815
短期借入金	870,000	1,700,000
1年内返済予定の長期借入金	—	60,000
リース債務	1,440	482
未払法人税等	169,485	199,314
賞与引当金	52,521	90,867
役員賞与引当金	13,000	—
販売促進引当金	514	514
その他	643,721	643,607
流動負債合計	1,878,739	2,901,601
固定負債		
長期借入金	—	226,333
リース債務	2,731	2,370
資産除去債務	29,027	26,993
固定負債合計	31,758	255,696
負債合計	1,910,497	3,157,297
純資産の部		
株主資本		
資本金	611,864	612,029
資本剰余金	235,244	235,409
利益剰余金	2,666,695	3,215,137
自己株式	△370	△370
株主資本合計	3,513,434	4,062,206
純資産合計	3,513,434	4,062,206
負債純資産合計	5,423,932	7,219,503

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	4,463,014	5,710,771
売上原価	1,608,752	2,215,636
売上総利益	2,854,261	3,495,135
販売費及び一般管理費	2,210,366	2,603,473
営業利益	643,895	891,661
営業外収益		
受取利息	151	85
受取事務手数料	335	229
貸倒引当金戻入額	913	930
その他	262	972
営業外収益合計	1,662	2,217
営業外費用		
支払利息	1,721	3,413
事務所移転費用	—	3,380
その他	—	5
営業外費用合計	1,721	6,799
経常利益	643,837	887,079
特別損失		
固定資産除売却損	—	211
特別損失合計	—	211
税金等調整前四半期純利益	643,837	886,868
法人税、住民税及び事業税	206,760	322,289
法人税等調整額	△1,550	△31,018
法人税等合計	205,210	291,271
四半期純利益	438,627	595,597
親会社株主に帰属する四半期純利益	438,627	595,597

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	438,627	595,597
四半期包括利益	438,627	595,597
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	438,627	595,597

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第2四半期連結会計期間において、株式会社モバイル・プランニングの全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	MVNO 事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	3,917,844	3,917,844	545,169	4,463,014
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	3,917,844	3,917,844	545,169	4,463,014
セグメント利益	722,789	722,789	116,422	839,211

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているハウスペンダー事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	722,789
「その他」の区分の利益	116,422
全社費用(注)	△195,316
四半期連結損益計算書の営業利益	643,895

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	MVNO 事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	5,213,018	5,213,018	497,753	5,710,771
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	5,213,018	5,213,018	497,753	5,710,771
セグメント利益	1,100,960	1,100,960	112,831	1,213,792

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているハウスペンダー事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,100,960
「その他」の区分の利益	112,831
全社費用(注)	△322,131
四半期連結損益計算書の営業利益	891,661

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来、報告セグメントとして記載しておりました「契約加入取次事業」及び「天然水宅配事業」は量的な重要性が減少したため、「その他」に含めて記載しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「MVNO事業」セグメントにおいて、当社は株式会社モバイル・プランニングの株式を取得し連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間においては357,323千円であります。